

テーマ

国際女性ネットワークに日本人女性は どのようにかかわったか

研究 名称

国際女性ネットワークの歴史的研究

適用 分野

19世紀後半から20世紀への世
紀転換期、福音主義的女性運
動、国際連盟と女性組織

氏名 所属

安武留美 教授
文学部 英語英米文学科

内容

●特徴

国際的な女性運動は、第一次世界大戦後の平和運動の高揚により新たな局面を迎えた。19世紀に始まった欧米間の中上流白人女性たちの団結を目的としたヨーロッパ中心の白人女性たちの世俗的な組織が、アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国の女性たちも巻き込んで「真に」国際的な女性組織の設立を目指し始めたのである。しかし、非欧米社会には、異教徒姉妹の「救済」を目的とした基督教福音主義的女性組織の国際ネットワークが既に存在していた。

第一次世界大戦後、帝国主義の衰退や民族自決の理念の普及により、世界の権力構造が揺るぎ始めた1920年代、様々な立場の女性たちが多様な目的を掲げて、「女性」の地位向上を目指して国際的な活動に身を投じた。「女性たち」の連帯を目指しながらも、様々な組織の主張する「あるべき女性像」は多様なしばしば矛盾するものであり、信条、国籍、人種、文化、世代の違いから連帯は困難なものであった。

●研究内容

20世紀始めにハワイに発足した汎太平洋女性協会(Pan-Pacific Women's Association)と日本人女性の関わりに焦点を当てながら、当時拡大した多様な国際女性ネットワークの系譜を19世紀にさかのぼって明らかにし、さらには近年の国際女性運動や女性の生活への影響を考察する。



図 第一回汎太平洋女性会議
(Pan-Pacific Women's Conference)

キーワード

平和運動、女性運動、国際組織、トランスナショナル

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究